



## 柏原 康夫

KASHIHARA Yasuo

京都銀行会長

関経連副会長

# インフラ整備は 関西発展のカギ



これまでの関経連とのつながりは、毎年2月に開催される関西財界セミナーでした。格調高い議論が交わされ、会員の層の厚さ、活動レベルの高さを実感していました。今回、副会長に就任させていただき、大変やりがいのあるお役目をいただいたと思っています。

私が関西の最大のテーマと考えているのが、関西一円の交通インフラの整備です。大きな港や鉄道駅の周辺都市が発展していった歴史を見ても交通インフラが都市に大きな影響を与えるのは自明の理ですし、産業の種類を問わず、その発展には道路・鉄道・空港・港といった物流機能の充実が欠かせないからです。

なかでも私が大きな関心を持っているのが、舞鶴港とリニア中央新幹線や北陸新幹線をはじめとする関西の高速鉄道網です。舞鶴港はロシアのウラジオストクとつながる北の拠点ですが、港の設備や高速道路とのアクセスに課題があります。その活用が関西の発展につながるのですから、改善策を考えなければなりません。リニア中央新幹線や北陸新幹線は、ルートや開通時期など、実現に向け詰めなければならない問題が山積しています。また、新幹線の問題は関西国際空港(関空)の活用にも関係しています。関空を最大限活用するにはアクセスの改善が必須であり、それには京都や神戸につながる新幹線を関空に通すことが絶対に必要です。とはいえ、巨額の費用がかかるこの事業がすぐに実現するのは難しいのが現実です。ただ、それにひるまず言い続けることも重要だと思うのです。

副会長として私が担当するのは関西文化学術研究都市(けいはんな学研都市)ですが、せっかくの国家プロジェクトを今の状態にしておくのはもったいないというのが率直な印象

です。ポイントは、交通アクセスの改善と研究者に“行きたい”と思わせる快適なまちづくりをいかに行うかでしょう。研究者も普通の生活者ですから、便利で、研究環境と日常の生活が融合している場所に魅力を感じるのではないのでしょうか。どちらもこれまでかかわってこられた方が取り組まれた「言うは易く行うは難し」のテーマではありますが、一步一步進めて行きたいと思います。それに加え、京都の南部など、けいはんな学研都市の周辺に研究施設や生産拠点などを増やし、外側からつながっていけないかということも考えています。例えば関経連などが支援して、中堅・中小企業が研究・開発した製品の試作・検証を行える試作工場を作れば、中堅・中小企業の支援にもつながり、一石二鳥ではないでしょうか。

東日本大震災を受け、西日本・関西には持てる経営資源を最大限に活用して頑張ることが求められています。しかし、産業にとって血液にも等しい電力が不足すれば頑張ろうにも頑張れません。節電は結構ですが、電力が止まることだけは避けなければなりません。原子力発電所については、一気に方針転換するのではなく、軟着陸をはからねばさまざまな弊害が生じてしまいます。

多数の人や国にかかわる大事を動かす時、最も大切なのは「中庸」という考え方です。原子力発電をやめるのが国民の選択ならその方向にかじを切るのは構いませんが、すべての原子力発電所をすぐ止めてしまうような急な進め方は政策でも何でもありません。この場合、「毎年数基ずつ、ある程度の期間をかけて徐々にとめていき、その間に代替エネルギーを作る」といった新しいエネルギー政策を示しながら進めるのが中庸というもの。そうしてこそ事はうまく運ぶのです。これは声を大にして言いたいですね。(談)